

提言作成を終えて

関 嘉寛 座長

市民活動の推進と市民と行政の協働というテーマは現代において避けては通れないものです。にもかかわらず、未だに答えが見つかっていません。この会議を通じて、委員のみなさんの市民活動に対する思いと羽曳野市や地域への愛着の強さを実感しました。このテーマを解く手がかりが見えたような気がしました。提言書にある通り、これはまちづくりに向けての協働の第一歩です。委員のみなさんの思いが詰まったこの提言が是非、実りあるものとして生かされていくことを望みます。

最後になりますが、委員のみなさん、事務局のみなさん、ほか様々な支援をくださったみなさん、大変ご迷惑とお手数をおかけいたしました、おかげで満足いく提言書が完成いたしました。心より感謝いたします。

渥美 公秀 副座長

提言は、委員の皆様が、わがまち羽曳野を良くしていこうという思いで練り上げたものです。どうかこの提言を「自分たちのこと」として、受けとめてください。提言には、「市民」という言葉がたくさん出てきます。この言葉を、ご自分の名前と置き換えて読んでみてください。委員の皆様の思いが届くようにと願っております。

山本 由佳子 座長サポートスタッフ

自分自身のNPOでの活動や市議会議員のもとでのインターンシップの経験などから、行政と市民がもっとうまく協働していけないものかという問題意識を抱き、縁あってこの会議に議事録係として参加させていただきました。参加された皆さんの真剣な議論やその根底にある思い、先が見えない中で懸命にひとつのものを作り上げていこうとされる姿を見て私自身非常に刺激をうけました。有難うございました。

赤井 賢一 委員

未知の街での取組、困難、ご苦勞を思い、感謝しております。よく纏めて下さいました。

続いて雅びの街に相応しいユニークなアイデアに富んだこの市町村にもない結婚相談所（営利紹介ではない、カウンセリングルーム、結婚講座をもつ）で結婚の意義、大事さ、夫婦観、家庭形成（胎の実のミラクル）、育児、人生観について確かな理念に基づくアドバイスをする。結婚率、出生率のアップ、若年者の定着、元気な街を願いつつ一言。

井上 克美 委員

生まれてからずっと羽曳野市で暮らしていて、自分たちが暮らす地域を魅力あるものにするための議論を市民の間でしたいと思っていました。そうした中で今回、市民活動推進検討会議でこれからの羽曳野における市民活動のあり方の議論に参加させていただいたことは貴重な経験でした。しかし、この提言はゴールではなくこれをスタートとして今後どのように提言を生かしていくかが大切だと思います。この提言がキックオフです。

岩崎 和弘 委員

市民活動が目的なのか、市民活動と行政の協働が最終目的なのか、キーワードなされていなかったもので、草案まとめに大変苦勞された事と思います。検討会議の課題がパターンの多様化で市民活動の内容によっては地域住民独自で出来る活動もあり、行政との協働が必要な時もあると思う。

そこで、今後提言草案が採用された時、活動実践するにあたって、今行政は地域住民に何を必要とし、何を求めているのか。又協働の領域問題（支援促進する主体組織のあり方、支援促進する活動内容の対象）の区別を十分に説明発表してもらいたいと思います。

反省のことばとして 市民活動と協働について提言草案を点数評価するならば、予算（数字）的草案問題であれば答が明確に出来るが、パターン多様化の提言草案問題であるので、検討会議の進め方によっては積極的な答もあり又消極的な答もありで自分としては満足度の評価値が一定しない事が反省点の1つです。

柏樹 實 委員

長いようで短い1年間でした。多様な意見を纏めて文章化する作業は、部会の時間と場所のセットを含め、予想以上に手間取りましたが、その割に満足すべき成果を得られなかったのは残念でした。しかし関座長のお力で何とか批評に耐えられるものに仕上げ頂き厚く御礼申し上げます。後は気長に実現化を見守るばかりです。

岸和田 かおり 委員

一年前、この会議をどのように進めていけばいいのかもわからず、この会議の難しさに直面し、不安に感じたのを思い出します。それぞれに持ち寄った話を膨らませながら、何回も部会を重ねました。話し合う中で教わる事や気づく事も多く、本当に勉強になりました。熱く語る委員の皆さんにも影響を受けて、私自身も羽曳野で育っていく子ども達への願いや夢がさらに深くなりました。1年間ありがとうございました。皆様、本当にお疲れさまでした。

立石 修一 委員

浅学非才の私には、とても叶わない素晴らしい考えと知恵を持った市民仲間達と力を併せ、羽曳野市長への提言作成が出来た事を何よりも嬉しく思う。

幾度かの検討会議を重ねるに伴い、私自身、市民活動に参画した充実感を深く味合う事が出来た。そんな素晴らしい仲間達との提言作成内容に自信を持ち、我々市民としての主張に加え、同時に市民として自助、自立の責任を強く感じる。

塚 誠 委員

少子化と高齢化社会が進むなかで、羽曳野市民がどのような形で市民活動に参加し推進すれば、羽曳野市のめざされる姿になるか検討し提言できたと思います。この提言により羽曳野市民が共通理解のもと全員参加による市民活動を期待します。

教育に関し一言、家庭は子供を育てるところ、学校は勉強をするところ、と思います。

寺田 紀子 委員

日ごろ、子育て支援や、公民館の活動にかかわっていて、市民にとって自主的な活動について考えることがあったので、この度の機会に恵まれて、行政との関係についても、考えることができて大変よかったですと思いました。何よりもこの会議に出会えた委員の方々と、市民活動について忌憚なく、意見交換できたこと、座長、副座長の貴重なお話も伺えたことが、とてもよい経験となりました。これからの活動におおいに生かしていこうとおもいます。しかしながら、市民活動の推進としては、これからの継続したものが、なんらかの形で必要なのではないかと考えます。今後は行政の方々が、この会議をどう生かされるか、期待します。

西田 政弘 委員

仮称「市民活動推進センター」を各小学校区で設置することの提言が大きな成果だったと思います。この提言を実現するためには今後継続して市民と行政が一つひとつの課題を協議すること、つまり、市民と行政との協働を実践しましょう。

早川 亮 委員

就職が決まり、仕事の都合でフェードアウトする事となり申し訳ございません。いろんな方から話をお聞きし、今私たちが出来ることは何だろうかと考えました。しかし、明確な答えはありません。新しいルール作りに参加したのではないので当たり前ですが・・・。
優しい心を忘れず暮らして生きたいです。

福田 裕 委員

委員さん達の多様な個性に触れ合えた事は貴重な体験です。色々な問題も発生しましたが、成果品提出まで座長さん・事務局の皆さんには大変お疲れ様でした。当該会議を通じて羽曳野市には各分野での才能を持った人材が多い事に驚かされました。

風呂谷 幸蔵 委員

人権を基調にしたまちづくりを、市民活動と行政の協働で推進していくことが、柱になると思います。今回の経験を地域の活動に生かしたいと思います。

推進検討会議をなんらかの形で継続することが、必要であると思います。

委員・事務局の皆様、ご苦労様でした。

細見 克 委員

羽曳野市民のより住みやすい環境作り、より心の豊かさの追求のために何かできる事はないかと思
い委員に応募したが、反対に自己の無知を認識し、委員や事務局の方々の発言に教わり、結局、自分
自身のみで役立つ結果になった事に無念さが残る。

けれども、委員会で得た事を活かして2月より「古代史教室」を開講した。共に学ぶ人を募り、郷
土愛意識を高め、少しでもよりよい豊かさのために尽くしていきたいと思っている。

村上 周郎 委員

羽曳野市は町村のより集めで、田園とニュータウンの混在した町で工業、商業には見るべきものは
少ない。今後の10年に予想される少子高齢化、学力の低下、治安防災への関わりかた等は、早く市民
の提言をうけて、工程表を委員会で作るとともに、実施主体をNPOも含めて早期に立ち上げる事が大
切で、提言の実現を委員会が監視、フォローする体制をつくる必要がある。

コミュニティ内の雇用、経済の活性化は言うまでもないが、他人まかせ、でなく行政の行動範囲と
して、CB(コミュニティビジネス)の立ち上げに重点指向を期待したい。

市民会議の提言が「継続は力也」で実現され、継続する事をサポートしたいと思う。

吉村 邦夫 委員

これからのよりよいまちづくりのためには、市と市民が役割を分担しつつ、協働していかねばなり
ません。そのことを改めて認識しました。「提言」の次は「実行」です。やるべきことを早急に決め
てスケジュール化し、市と市民が一緒になって力強く前進させましょう。

安尾 ヒトミ 委員

安尾委員におかれては、誠に残念なことに途中で急逝されました。この場を借りて、あらためてご
冥福を心よりお祈り致します。